

普及活動情勢報告（平成30年11月分）

高吾農業改良普及所

トマト生産者が環境制御勉強会を設立しました！



講習を熱心に聞く生産者

11月16日、J Aコスモス日高支所トマト選果場でトマトの生産者が集まって「環境制御技術勉強会」を設立し、あわせて勉強会を開催しました。

この会の設立にあたり、普及所は新規就農者や若手生産者への声掛けを行い、当日は若手生産者7名の参加がありました。合わせて、環境制御技術を導入しているほ場で現地検討を行った後、普及所から環境制御技術の基礎について講習を行いました。

今後、勉強会は月に1回、定期的で開催されることになり、普及所は温湿度管理などテーマを絞った内容で議論を深めることで、環境制御技術の理解を深めて生産に生かせるように支援していきます。

女性の視点で、そぐりセンターの課題を考えよう！



そぐりセンターを視察中

10月26日、J Aコスモスニラ生産部の女性生産者6名がそぐりセンターを視察しました。

これまで出荷はしていたものの、自分たちのニラがどのように処理されているか見たことがない生産者もあり、「少しの曲がりでも、歩留まりに影響することが分かった」「音が大きく、作業員が大変」などの感想が聞かれました。また、「そぐりセンターを見ていない人は勉強になるので見た方がいい」といった前向きな意見も聞かれました。普及所からは、カイゼンの取組について説明を行いました。

今回見つかった課題を意識することで、より能動的にそぐりセンターや生産に関わっていくよう支援します。

農福連携の推進への足がかり！



日高村関係者での取組協議

11月19日、日高村保健センターで「農福連携勉強会」が開催されました。安芸福祉保健所の職員やナス農家を招き、取組の中で困難であったことやうまくいったことなどを直に聞くことができ、参加者は農福連携への理解を深めました。引き続き、日高村に關係する福祉及び農業関係機関に加え、（株）コスモスアグリサポートや（株）イチネン農園も参加し、日高村での具体的な農福連携の推進方法について協議しました。

普及所では福祉関係者とも連携し、日高村の農業現場での体験実施に向けたサポートなどを行っていきます。

集落営農組織、新規園芸作物の導入へ



ショウガを収穫する組合員

11月5日、日高村の（農）沖名営農組合が栽培したショウガの収穫を行いました。

組織の活動は、主に水稻栽培（主食用米と飼料米）ですが、今後の目標である園芸作物導入による所得安定及び担い手確保のため、園芸作物の実証を継続しています。今年は約20aでショウガ栽培を行い、収穫は組合員以外の近隣住民にも呼びかけて行いました。組合員からは、近隣住民に組織の活動を理解してもらい、参加しやすい仕組みを作っていきたいとの声が聞かれました。

普及所はこれからも組織活動をステップアップするための計画づくりや実証ほ設置について支援してきます。

カイゼン進む！生産者と作業員にやさしいそぐりセンターへ



カイゼンに向けた協議

11月7日に今年2回目となる、そぐりセンターのカイゼンマイスター現地診断があり、6月の現地診断の際に助言のあった項目の改善状況を現地で確認しました。撮影した動画を使った作業員研修により歩留まりの向上が見られる一方で、自作の防音壁では騒音を抑えられておらず、防音壁のさらなる改善について助言をもらいました。

今後も、できることからとりあえずやってみよう！と、JA担当者、センター作業員と試行錯誤しながらカイゼンに取り組みます。

今年もようやく出荷開始、シュガートマトの収穫が始まる！



初収穫されたシュガートマト

日高村や佐川町で栽培されている高糖度トマト「シュガートマト」が11月15日に初出荷されました。9月に続いた曇雨天で生育が遅れ、例年より2週間程度遅い出荷開始となりましたが、新規就農者により栽培面積が約30a増えたことで、出荷量は増える見込みです。出荷は来年6月まで続きます。

普及所は、現地巡回や月例会を通じ、土壌および汁液の分析や生育状況に基づいた栽培管理の助言指導を行っており、今後も継続していきます。